

論文の和文要旨

論文題目	現代日本語の補助動詞 —「してみる」と「してみせる」の意味・用法の記述的研究—
氏名	ソン ジヒョン 成 知 炫

本稿は、動詞のいわゆるテ形（「して」）に補助動詞「みる」「みせる」がついた「してみる」「してみせる」を考察の対象にし、両形式の意味・用法、および、その実現する条件を明らかにしようとするものである。

「してみる」「してみせる」の意味・用法を実現する条件について従来、様々な指摘がされてきた。しかしながら、主動詞の語彙的な意味の特徴、「してみる」「してみせる」の形態・構文の特徴、文脈の特徴という両形式の意味・用法に関わる諸条件を総合的に捉え、考察した研究はなかった。

本稿では、それらの諸特徴を総合的に捉えて「してみる」「してみせる」の意味・用法を記述し、さらにコーパスを用いて実証的に考察する。本稿でコーパスとして用いるのは『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』の60作品である。分析の対象は、「してみる」がコーパスから全例収集したものから均等に3割を抽出した1,104例であり、「してみせる」がコーパスから全例収集した392例である。

以下、本論の各章（第2章「してみる」の意味・用法について、第3章「してみせる」の意味・用法について）の概略を述べる。

第2章では、「してみる」の意味・用法に関わる4つの条件を手がかりにして「してみる」の意味・用法に「ためし」「弱ためし」「気づき」があることを示す。

まず4つの条件とは、次のようなものである。

- ①「してみる」の主動詞の語彙的な意味の特徴：これについて従来は、主動詞の「意志性」が指摘されている。しかし、意志性というだけでは「してみる」の意味・用法との関わりを詳細に捉え難い。本稿では「認識性」すなわち、動作を行った結果や変化の結果を視覚などの感覚で認めるという特徴が重要だと考え、意志動詞をさらに「認識活動に関わりやすい意志動詞」「認識活動に関わり難い意志動詞」に分けて考察する。

- ② 「してみる」の形態的特徴：「してみる」が文中でとりうる形（終止形であるか非終止形であるか）と主動詞の「意志性」の関わりも問題としうる。例えば、「帰る」のような意志動詞は「帰ってみた」のような終止形、「帰ってみると」「帰ってみたら」のような非終止形のいずれもとることができるが、「雪がとける」のような無意志動詞は「雪がとけてみた」のような終止形がとれない、といった点である。
- ③ 「してみる」の構文的特徴：「してみる」文の主語が有情物であるか非有情物であるかも関わっているように思われるが、これはむしろ主動詞の「意志性」の問題となるので、「してみる」の意味・用法の考察には用いず、指摘にとどめる。
- ④ 「してみる」の文脈的特徴：「してみる」動作とその前後の文脈が構造を為しており、それが「してみる」の意味に関わっている。たとえば、「家に帰ってみると」は、文脈の類型によって「ためし」になったり（以下の(5)）、「発見のきっかけ」になったり（(7)のイ）する。本稿では、「してみる」動作と「「してみる」動作へとかりたてる原因」「「してみる」動作を行った後の結果」が構造を為していることを実証的に検討し、それを類型化して考察に用いる。

<図1：「してみる」の文脈の構造の類型（全体像）>

A型	「してみる」動作へとかりたてる原因	「してみる」動作	「してみる」動作を行った結果
(1)	他のお客さんがみんな食べていたので食べてみると想像を絶する旨さだった。		
B型	「してみる」動作へとかりたてる原因	「してみる」動作	
(2)	あなたの望みに沿うよう努力してみます！		
C型		「してみる」動作	「してみる」動作を行った結果
(3)	引っ越したばかりは気がつかなかったが、春になってみると家の周りは花がいっぱいだった。		
D型		「してみる」動作	
(4)	一度でいいからアスリートと呼ばれてみたい。		

次に、3つの条件を手がかりにして、「してみる」の意味・用法に「ためし」「弱ためし」「気づき」があることを示す。

- (5) 美味しそうだったので食べてみたが、それほどではなかった。 【ためし】
- (6) 「あいつの縛り方じゃ安心できねえな。点検してみろ」
- (7) ア. 買い物から帰って来てみたら、ガスの臭いがしていた。（発見のきっかけ）
 イ. 一度は高級料理店で上等な料理を食べてみたい！（体験への憧れ）
 ウ. 一曲歌ってみようとしたが、一曲も思いつくことができなかった。（実際） } 【弱ためし】
- (8) 冬になってみると、北国だという実感がする。 【気づき】

「ためし」の意味が実現されるのは、主動詞の語彙的特徴としては意志動詞、特に「認識活動に関わりやすい意志動詞」であり、文脈的特徴としてはA型またはB型である際である。形態的特徴は特に制限がない。このようにして3つの特徴を考え合わせることで、「弱ためし」「気づき」の意味が生じる条件を見出すことができ、各類の用例数を調べることができる。そ

の結果を概略に示したのが<表 1>である。なお、「ためし」「弱ためし」「気づき」はそれぞれ、<他の目的のために、ある動作を試みること>、<「ためし」の意味が明確に表れず、動作そのもの、または、動作の後の結果だけに焦点が当てられること>、<非意志的な動作または出来事がきっかけで、あることに気づくこと>を表す。

<表 1:「してみる」の意味・用法とそれを実現する条件、および用例数>

「してみる」の 意味・用法		語彙的特徴	形態的特徴	文脈的特徴	数 (例)	割合 (%)
		意志／無意志	終止形／非終止形	文脈の類型		
ためし		意志 (「認識活動に関わり やすい動詞」が多い)	終止形、非終止形	A、B	796	72.1
弱 た め し	発見の きっかけ	意志	非終止形 (条件形が多い)	C	193	17.5
	体験への 憧れ	意志 (無意志)	終止形	B (D)		
	実際	—	—	—		
気づき		無意志	非終止形 (条件形が多い)	C	50	4.5
慣用的用法		—	—	—	65	5.9
計					1,104	100.0

用例の偏りについていうと、表にうかがえるように、「ためし」が72.1% (796例) を占め、最も多いことが明らかであり、「ためし」が「してみる」の基本的な意味であることを本稿で実証的に確かめることができた。

第3章では、「してみせる」の意味・用法に関わる4つの条件を手がかりにして「してみせる」の意味・用法に「表情・身振り、行為の直接提示」「内面、態度の間接提示」「豪語」「称賛」があることを示す。

まず4つの条件とは、次のようなものである。

- ①「してみせる」の主動詞の語彙的な意味の特徴:「可視性」すなわち、動作の始まりや過程が目で見えられるか否により主動詞を可視動詞、不可視動詞にまとめる。可視動詞(「うなづく」「(顔を)しかめる」)は、「してみせる」の主動詞になってその動作を相手に示すことを表せるが、不可視動詞(「驚く」「勝つ」)はそれができず、「してみせる」の意味においても、動作を相手に示すという意味は表せない。
- ②「してみせる」の形態的特徴:「してみせる」がとっている形が未実現形であるか既実現形であるかという「実現性」も条件となる。
- ③「してみせる」の構文的特徴:動作を見せる相手が構文的に特定できるか否かも条件となる。
例えば、「先生は学生に「壽」という文字をゆっくり書いてみせた。」のように相手が特定

できる場合と、「北村選手は 200m をあつという間に泳いでみせた。」のように相手が特定できない場合とでは「してみせる」の表す意味が異なる。

- ④「してみせる」の文脈的特徴：「してみせる」についても「してみせる」動作と「「してみせる」動作へとかりたてる原因」「「してみせる」動作を行った後の結果」が構造を為している。また、「してみせる」とその前に現れている文の種類（叙述文、依頼・命令文、表出文）との意味的な関わりも条件として考える。

<図 2：「してみせる」の文脈の構造の種類（全体像）>

A 型	<u>「してみせる」動作へとかりたてる原因</u>	<u>「してみせる」動作</u>	<u>「してみせる」動作を行った結果</u>
(9)	<u>「ちゃんにご飯食べている？」</u>	太郎は <u>頷いてみせた。</u>	<u>花子は安心したように微笑んだ。</u>
B 型	<u>「してみせる」動作へとかりたてる原因</u>	<u>「してみせる」動作</u>	
(10)	<u>「あなたのためなら何でもする。</u>	今度こそ <u>あなただけは守ってみせるよ！」</u>	
C 型		<u>「してみせる」動作</u>	<u>「してみせる」動作を行った結果</u>
(11)	北村は <u>あっさりと勝ってみせ、</u>	<u>ファンを喜ばせた。</u>	

次に、4 つの条件を手がかりにして、「してみせる」の意味・用法に「表情・身振り、行為の直接提示」「内面、態度の間接提示」「豪語」「称賛」があることを示す。

- (12) 「大丈夫？」花子が訊いた。太郎は何も言わずに（花子に）頷いてみせた。花子は安心したように微笑んだ。 【表情・身振り、行為の直接提示】
- (13) 花子は太郎の無関心に我慢できず（太郎の前で）「あなたなんか大嫌い！！」とすねてみせた。「ごめん。」と太郎は素直に認めた。 【内面、態度の間接提示】
- (14) 「今度こそ絶対成功してみせる！！」 【豪語】
- (15) 北村はあっさりと勝ってみせ、ファンを喜ばせた。 【称賛】

「表情・身振り、行為の直接提示」は、動詞の語彙的特徴が可視動詞であり、構文的特徴として動作を示す相手が文中に明示され、形態的特徴として「してみせる」が既実現形をとり、文脈的特徴として A 型（または B 型）の種類を為すときに表れてくる意味である。このようにして 4 つの特徴を考え合わせることで、「表情・身振り、行為の直接提示（さらに 8 つに下位分類）」「内面、態度の間接提示」「豪語」「称賛」の意味が生じる条件を見出すことができ、各類の用例数を調べることができる。その結果を簡略に示したのが<表 2>である。

「表情・身振り、行為の直接提示」は、動作主が何らかの目的を持って特定の相手に表情や身振り、行為を示すことを表す。「してみせる」とその前の文との関わりにより「応答」「合図」「手本」「みせびらかし」「披露」「強調」「直示」「証明」に分けられる。「内面、態度の間接提示」は「してみせる」の形をとり、言葉や表情、関連する他の動作などが間接的に示されていることを表す。「豪語」は、動作主である話し手が不特定多数の人の前で今後実現させようとするということについて自信たっぷりに述べることを表す。「称賛」は、動作主の意図とは関係なしに、書き手（または、話し手）が動作主の行為を立派なものとして捉えて述べることを表す。

<表2:「してみせる」の意味・用法とそれを実現する条件、および用例数>

「してみせる」の 意味・用法		語彙的特徴	形態的特徴	構文的特徴	文脈的特徴	数 (例)	割合 (%)
		可視動詞/ 不可視動詞	既実現形/ 未実現形	特定/ 不特定	文脈の種類		
表情・身振り、行為の 直接提示	応答	可視	既(未)	特定	A (B)	59	77.6
	合図				A	28	
	手本				A (B)	13	
	みせびらかし				A (B)	20	
	披露				A (B)	53	
	強調				A	75	
	直示				A	18	
	証明				A (B)	38	
内面、態度の 間接提示		不可視	既(未)	特定	A	28	7.1
豪語		不可視(可視)	未	不特定	B	52	13.3
称賛		不可視(可視)	既	不特定	C	8	2.0
計						392	100.0

この表をもとに用例数の分布についていうと、従来の研究で「してみせる」の代表的な意味として取れ上げられている「手本」「みせびらかし」は、前者が3.3% (13例)、後者が5.1% (20例)と「してみせる」の意味・用法の極めて僅かな割合しか占めていないことが明らかになった。

本稿では、「してみる」「してみせる」の意味・用法の考察にあたって、いずれの形式も、それぞれの動作と「それをかりたてる原因」および「動作を行った後の結果」が文脈のなかで構造を為していることを重要な特徴だと捉えた。そして、この文脈的特徴と、主動詞の語彙的意味の特徴、形態的特徴、構文的特徴の4つを総合的に組み合わせて考察することによって、「してみる」「してみせる」の意味を明らかにした。

本稿で述べた「してみる」「してみせる」は、いずれも原因的な事態と結果的な事態が大きく関係している点で共通しているだけでなく、他の「もくろみ動詞」(「してやる」「しておく」など)とは異なり、やりもらいやアスペクトのような他の側面を持たず、純粹に「もくろみ動詞」と言える形式である。

今後は、「してやる」「しておく」のように「もくろみ動詞」の側面と他の側面を合わせもっている形式まで範囲を広げ、本稿で用いた研究方法を通して考察し、文脈レベルの研究および「もくろみ動詞」の諸相を明らかにしていきたい。

